

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都立府中療育センター		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日 ～ 令和7年3月7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68 (回答者数)	43
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日 ～ 令和7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子で一緒に通っていただくことにより、お子さんの成長発達を促進し、ご家庭と一貫した療育を行っていること。 親子が安心感をもって、楽しみにしてもらえるように、通園生活や保育活動の提供を行っている。	お子さんの運動面や特性は様々であるが、活動等のスペースが十分に確保し、安全面に配慮した活動提供の工夫を行っている。登園人数やメンバーも日によって異なるが、当日の登園児のメンバーを考慮し、保育活動を設定している。	ご家族と一緒に繰り返し遊ぶことで、「できた」ことが定着することを目指しているプログラムだが、月1～2回登園のお子さんは遊びの積み重ねが難しいため、そのようなお子さんに対するプログラムを検討していく。
2	保護者からの相談も保護者が必要な時に応じることができていること。事業所全体多職種で、情報を共有し、お子さんやご家族の支援を実施している。	定期的な面談以外にも必要な時に面談を行っている。 ケース会議、電子カルテやミーティング等を通して、日々のお子さんの様子やご家族の困りごとに対して、情報共有をしている。	電子カルテや面談、日々の保護者との会話から、お子さんの様子やご家族の困りごとについて把握し、早急に問題解決できるように努めていく。
3	地域移行に向けた取り組みとして、お子さんが併行して通っている施設や移行先施設との連携を行っている。	併用施設や移行先施設と電話や会議などを通した連携のみならず、お子さんが通っている場面を見てもらったり、見せてもらい情報交換をすることを心掛けている。	移行支援は保育所等訪問支援事業につなぐなどして、通園（児童発達支援）終了後も親子が安心できるように、切れ目のない支援をする。
4	保育室だけでなく通園の各所を清潔で、心地よく過ごせる環境にしている。活動に合わせて、保育室の使い方などの工夫を行っている。	快適で生活な空間で、安心して過ごせるように、通園全体の清掃、おもちゃや遊具の清掃、職員は手指衛生を徹底し、感染予防にも取り組んでいる。 お子さんの人数や特性に合わせて、パーソナルスペースを確保できるように保育室を広げたり、保育の内容に合わせて、ホールも活用している。	今後も清掃、手指衛生を徹底し、感染予防にも配慮しながら、快適でお子さんが使いやすい環境を保っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園との交流や地域との交流	新型コロナウイルスや感染症の流行で、交流が中止されていた。	感染状況をみながら、保育園との交流を実施していきたい。
2	家族会がなくなってしまったため、ご家族からのご要望のとりまとめや家族間、ごきょうだいの交流の機会が減ってしまった。	家族会のご家族のご要望でなくなった。 感染症の流行があり、行事等へのご家族の参加人数も制限されていた。	面談やアンケートなどでご家族からの要望は個別に把握するよう努力している。 感染症での人数制限も緩和されてきたため、行事等を活用し、交流の機会を増やしていけるよう検討したい。